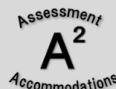


エーラー

A²アセスメント・「個別の教育支援計画」ツールの概要

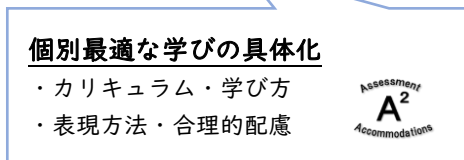
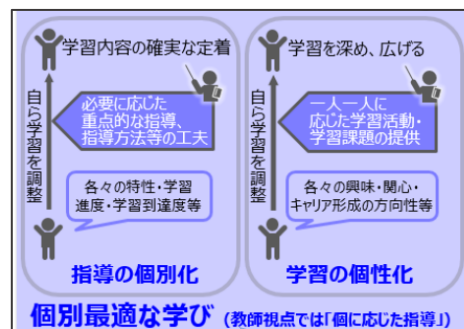


A²研究会 岩山カイナ（大阪府立出来島支援学校）

1. A²「個別の教育支援計画」ツールとは

A²「個別の教育支援計画」ツールは、アセスメントと合理的配慮アイデアリストが内包された、教育計画検討と共通理解のためのツールです。

【個別最適な学び】への「合理的配慮・カリキュラムの調整」を、発達の観点と特別支援学校学習指導要領の段階をもとに明確化します。



2. A²「個別の教育支援計画」ツールの特徴

①【支援のための発達アセスメント】で多様な学びの支援！

- 学習カリキュラムの明確化
- 発達特性凸凹から支援ニーズの明確化

②【合理的配慮アイデアリスト】で豊富な支援

③ 指導・支援と評価の経年変化を確認できる（3～18歳まで）

④ 多校種対応：幼・保～特別支援学校 高等部

3. A² [支援のための発達アセスメント] ～学校社会の中での子ども理解とカリキュラム評価～

子どもの強み凸と課題凹の実態がレーダーチャートで“見える化”されます。多様な凸凹を相互に関連付けながら実態把握を深め、チーム支援のための支援者間共通理解を広げることに役立っています。また、特別支援学校学習指導要領の指導の段階の目安をレーダーチャートの色で確認し、「カリキュラムの調整」に関する指針を得ることができます。

※A²アセスメントは発達の観点からの指標に基づいて作成され、また妥当性の検証を行っています。

エーラー

A² (Assessment and Accommodations)

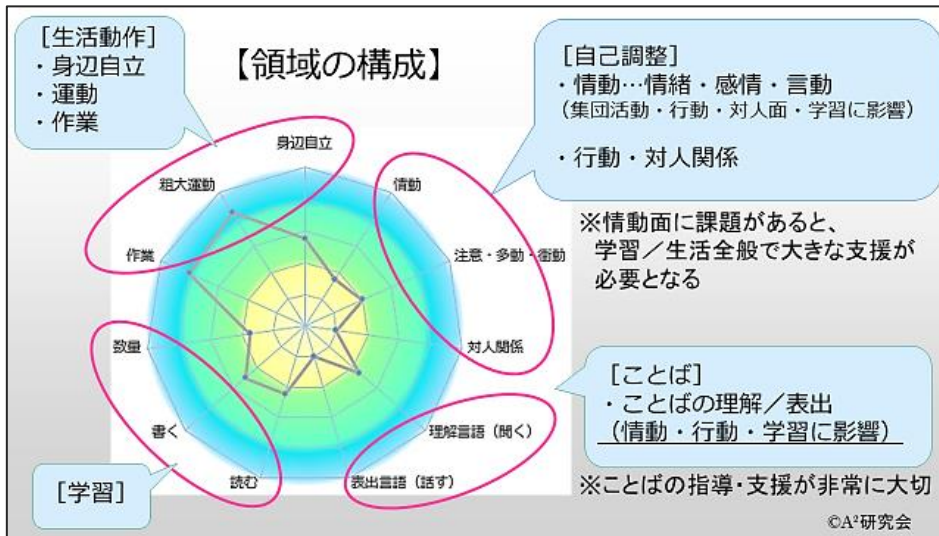
環境との相互作用から子どもを理解
→ 支援/配慮の「意思決定」へ

編集：A²研究会
 監修：佐藤克敏（京都教育大学）ら
 アドバイザー：Victoria Tarango（東口サンゼルス大学）
 研究指導：川合紀宗（広島大学）

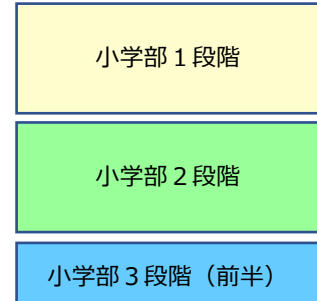
協力：平成30年度～令和元年度 大阪府教育委員会
 支援教育地域支援整備事業 大阪市ブロック
 大阪府立支援学校、大阪市内幼稚園/小中学校

A² [支援のための発達アセスメント] 発達段階に応じた 3 種類

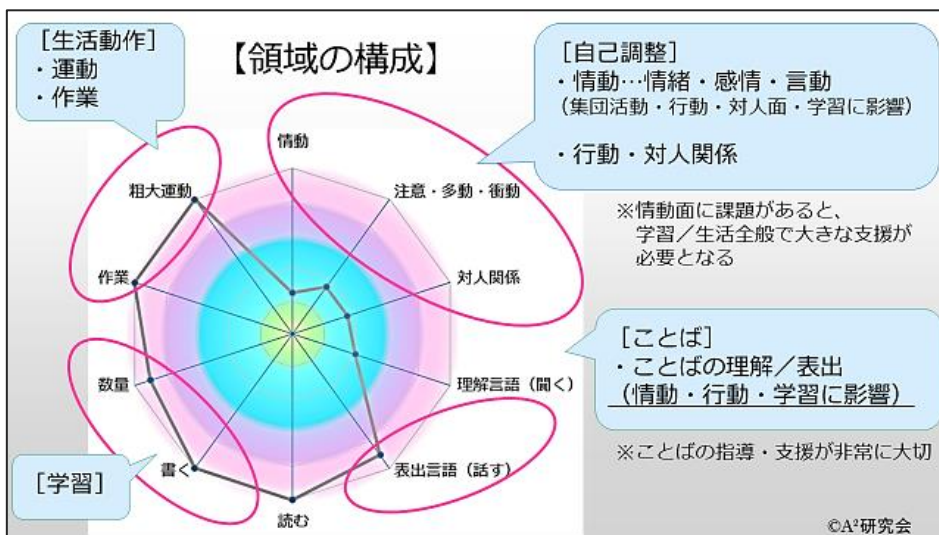
① 小学部の児童／重度の療育手帳を所持する生徒が主な対象。身辺自立に関する内容が含まれる



【特別支援学校
学習指導要領の段階】



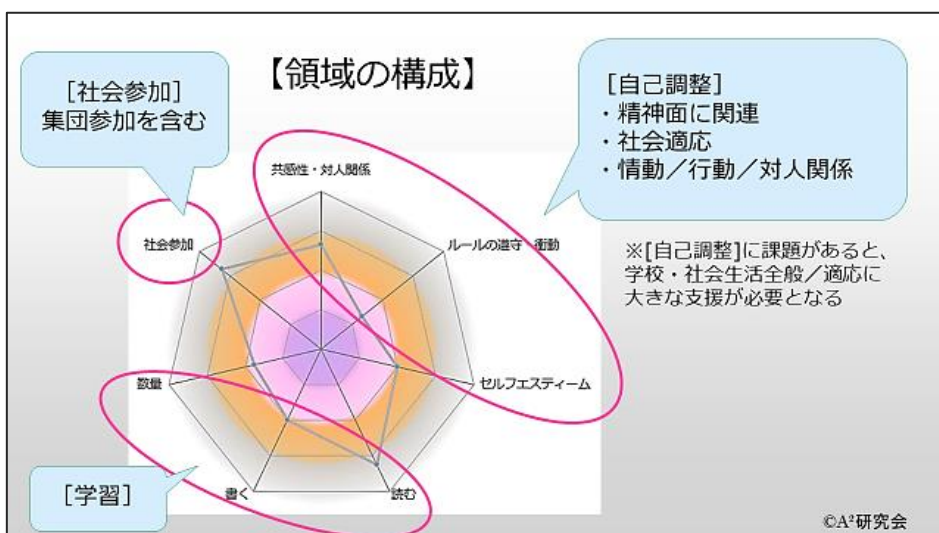
② 日常の基礎的コミュニケーションが円滑にでき、身辺自立ができてきている児童生徒が対象



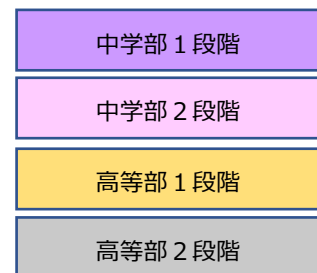
【特別支援学校
学習指導要領の段階】



③ 療育手帳を保持しない／又は小学校高学年程度の学習又は社会適応スキルを身に付けている生徒対象



【特別支援学校
学習指導要領の段階】



※発達段階に対応するため、
③は①②と領域が異なります

4. A² [合理的配慮など支援方法アイディアリスト]

～こんな配慮・支援があれば上手くいく☆アセスメントに基づく具体的な合理的配慮～

A²アセスメントの領域と連動した、500を超えるアイディアリストが支援をサポート

主な配慮事項の区分	視覚的・聴覚的コントロールの確保 環境設定・機器	身体的な負担の軽減 姿勢の調整・座位	社会的な負担の軽減 対人関係の調整	感情的・学習・知的負担の軽減 学習環境の調整	身体的負担の軽減 座位・姿勢	知的・学習・身体的負担の軽減 学習環境の調整	社会的負担の軽減 対人関係の調整
1. 学校生活全般 心身の健康 気持よく 対人関係

Aさん:円滑な集団参加が難しい

子どもの実態を共通理解!
支援が必要なポイントを明確にし、
支援方法・合理的配慮を検討

子どもの支援ニーズが見える

5. 自立活動(6区分27項目)の選定に活用できる

領域を関連づけながら子どもを理解

自立活動への活用(例)

強みを指導に活かす

コミュニケーション・対人関係

区分と項目の目安がわかる

区分	項目	目安
1. 身体活動	1.1 身体活動の楽しさを体験すること	○
	1.2 身体活動の楽しさを体験すること	○
	1.3 身体活動の楽しさを体験すること	○
	1.4 身体活動の楽しさを体験すること	○
2. 生活活動	2.1 生活活動の楽しさを体験すること	○
	2.2 生活活動の楽しさを体験すること	○
	2.3 生活活動の楽しさを体験すること	○
	2.4 生活活動の楽しさを体験すること	○
3. 学習活動	3.1 学習活動の楽しさを体験すること	○
	3.2 学習活動の楽しさを体験すること	○
	3.3 学習活動の楽しさを体験すること	○
	3.4 学習活動の楽しさを体験すること	○
4. 社会活動	4.1 社会活動の楽しさを体験すること	○
	4.2 社会活動の楽しさを体験すること	○
	4.3 社会活動の楽しさを体験すること	○
	4.4 社会活動の楽しさを体験すること	○
5. 自己活動	5.1 自己活動の楽しさを体験すること	○
	5.2 自己活動の楽しさを体験すること	○
	5.3 自己活動の楽しさを体験すること	○
	5.4 自己活動の楽しさを体験すること	○

チェック✓
領域と項目選定の
目安が分かる

5. アセスメントに基づく教育計画の検討

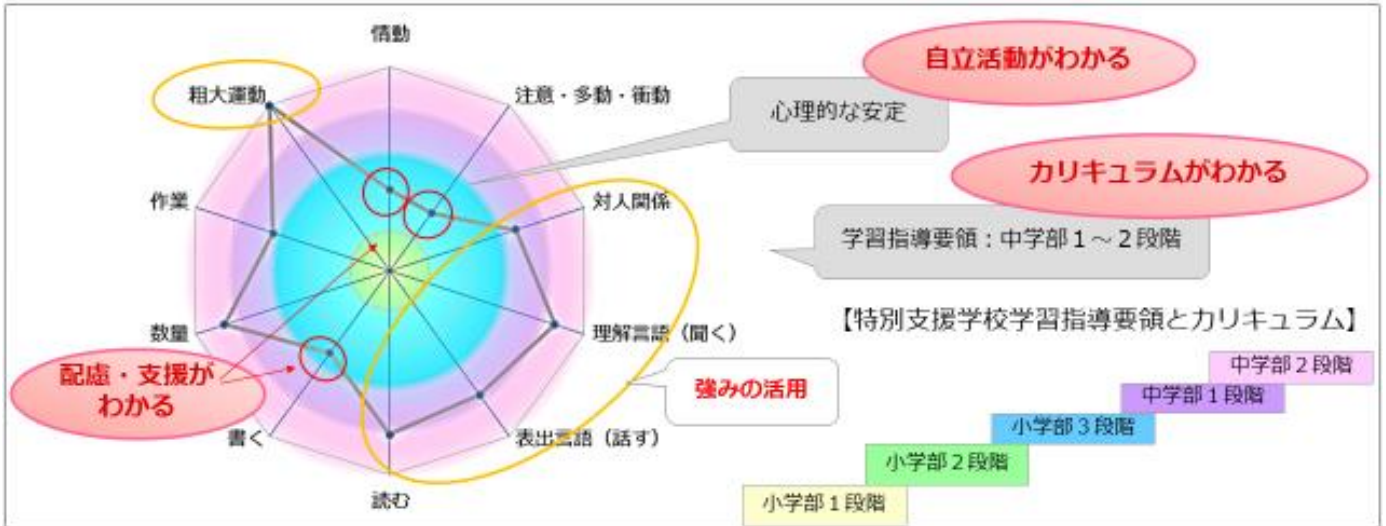
アセスメントの領域を関連付けながら実態を把握し、子どもたちの多様な学びを具体化します

A²「個別の教育支援計画」作成ツールとは



「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現へ

①学習指導要領の段階 ②合理的配慮 ③自立活動 子ども一人ひとりの力を活かす学び



A²「個別の教育支援計画」ツール（現在試作版）開発の目的について

学校現場では、児童生徒の多様な学びへのサポートや、複雑な支援ニーズへの対応及び共通理解・引継ぎに困難なことがあります。A²はインクルーシブ教育システムの中で「個別最適な学び」をめざし、適切な支援と学習カリキュラムを明らかにするためのツールです。アセスメントを個別の教育支援計画に内包することで、主観に頼った支援計画や学習カリキュラム評価の課題を解消し、経験の少ない指導者でもエビデンスに基づいた、教育計画が立案できることを狙いとしています。2024年現在、A²の研修会への参加校数は400校を超え、既に多くの公立・私立学校で使用されています。A²をきっかけに困難さに気付くことができたり、個別最適な学習カリキュラムの調整や支援に繋がったり、授業づくりのためのカリキュラム評価に活用されたりするケースが増えています。

<開発と項目について>

A²は、ロサンゼルス教育学区の大学で子どもの発達を教える Victoria Tarango 先生のサポートを受けて構想が始まり、2018年に佐藤克敏教授（京都教育大学）の監修で開発がスタートしました。各段階の尺度の領域は、大阪府教育委員会支援教育地域支援推進事業と特別支援教育コーディネーターらの協力を得て決定しました。下位項目は、発達の観点に基づく国内外の先行研究から要素を抽出し、特別支援学校学習指導要領で示される発達の観点に基づく指導の段階を軸に学習指導要領の文言を用いて作成しています。試作版の下位項目は、50人程度のプレテストを経て決定しました。

A²の信頼性と妥当性については、内的一貫性と安定性・構成概念の妥当性・内容の評価・外的基準との比較・社会的妥当性の検証を実施し、教育現場で使用するための信頼性と妥当性の検証プロセスを進めています。また、妥当性の研究について、日本学術振興会科学研究費助成事業（科研費）およびLD学会プロジェクトの助成を受けています。

岩山カイナ（大阪府立出来島支援学校）